

教科	工業	科目名	インテリア製図	単位数	2
学科	インテリア科	学年	1 学年	履修区分	必修
使用教科書	インテリア製図（実教出版）				
副教材など					

1. 科目の目的

インテリア製図は幅が広く、建物全体及び、細部（ディテール）における建築製図、建物内装計画によるインテリア製図、設備・製品における機械製図および、家具製図、インテリア空間の完成を表現するパースペクティブ等、多岐に及びます。本科目では、製図に関する日本工業規格及び、インテリア・建築・機械の製図についての基礎的な知識と技術を習得し、製作図、設計図などを正しく読む力、及び、インテリア・建築・家具等の図面を構想し作成する能力と態度を育成することを目的とします。

具体的な目的として、下記に示す製図に関連した検定試験のための基礎学力の確立を目指します。

基礎製図検定（全国工業高等学校長協会）
インテリア設計士2級（日本インテリア設計士協会）

2. 授業の内容と進め方

前期は平面図法（線や角の等分割、多角形・楕円等の描き方）及び、立体図法（立体を平面上に正しくあらわす方法、立体の断面の表し方、立体の表面を構成する展開図の描き方）、寸法・記号の記入方法など基礎的な製図技術を学習し、「基礎製図検定」によりその習熟度を確認します。後期は、家具（テーブル・椅子）の設計図（3面図）の描き方、室内を立体的に描くパースペクティブの描き方、及び、その透明水彩による着彩技法を学習します。

3. 学習する上での留意点

デザイナーが考えたものを、製作する人に正しく伝えるのが設計図面の役割であることを理解し、誰が見ても、同じものが製作されるように、製図規約やエレメント記号などを正確に描くことが重要になります。さらに、顧客に提案する図面として、見やすくセンスのある美しい仕上がりが要求されることに留意しなければいけません。実際に、パース技術の良し悪しで契約の有無が左右されることがあるそうです。

4. 課題等について

前期の基礎的な製図技術習得のまとめとしての「基礎製図検定」直前に、早朝補習を10日間実施し、過去問題による模擬検定、および解説を行い、全員合格を目指します。後期の家具製図（テーブル、椅子）、パースペクティブ及び、その着彩は完成作品として提出します。そのために授業時間で不足する分は課題とし、各自の自主学习によって完成させ期日までに提出します。

5. 成績評価規準(評価の観点及び趣旨)

評価の観点	評価規準
関心・意欲・態度	・インテリア・建築・機械製図について関心を持ち、作品作成に意欲的に、かつ、根気強く取り組んでいるか。 ・自主学习に努力し、課題を遅滞なく提出しているか。
思考・判断・表現	・図面を正しく読み取ることができ、デザインしたものを図面に正しく起こす能力を身につけているか。
技能	・家具製図・パースペクティブの着彩作品のセンス、技術力、完成度。
知識・理解	・製図規約、エレメント記号、立体の投影図法等の知識が正確で、よく理解し表現できるか。

6. 評価の方法

評価の観点に基づき、次の項目について総合的に判断し、評価します。

- ・出席状況・課題への取り組み、図面作成における製図用具の使い方、および、「基礎製図検定」の結果。
- ・家具製図（テーブル、椅子）作品、パースペクティブ及び、その着彩作品の完成度と提出状況。

《指導計画》 科目名 インテリア製図

1 学年

2 単位

学期	月	学習内容 (単元・考査等)	学習のねらい	評価方法等
一 学 期	4	1. インテリアと製図 2. 製図の用具と材料 製図用具の使用方法 表現技法に用いる用具と材料	製図とはそこに表現された指示どおりに加工や工事を進めていけば、目標どおりの製品や空間ができるものでなくてはいけない。見る人によって解釈に違いが生じないように、明瞭、正確に表現することが重要であることを認識し、平行定規・ドラフターおよび諸製図用具の正しい使用法を学習する。	行動観察
	5	3. 製図の規約 製図の条件 尺度および線と文字 寸法記入法	図面の構成および種類、スケールや製図に使用する線や文字、寸法や記号の記入法等、製図に関するJIS規格を学習し、正確な図面を作成する技術を習得する	作品完成度
	6	4. 「基礎製図検定」 第三角法・三面図 断面図 補助投影図 展開図	物体の断面図示や、物体の表面を構成する展開図の作図法を学び、正確に図面を作成する技術を習得する。	検定 模擬テスト
	7	5. 図法 平面図法	前期の総まとめとして、基礎製図検定を受検し、合格を目指す。 平面図法の基本として、製図に使用する線と文字の種類や線および角の等分・多角形の作図法・楕円の作図法等を学び、実際に作図する技術を習得する。	
	9	6. 家具製図 椅子の製図 正投影（第3角法）	家具の構造や部材の接合方法を学習し、正しく理解して、家具製作の基本となる図面を作図する。図面は正確でしかも解りやすいものになることに留意し、基本的な作図の流れに沿って作業を進める。	検定 作品完成度
	10	家具パースペクティブ		
	11	テーブルの製図 正投影(第3角法) 家具パースペクティブ		作品完成度
12	7. 表現技法 陰影技法 透視図法(パースペクティブ)	要求条件に従ってデザインしたインテリアの計画意図やイメージを、図面以上に分りやすく伝えようとするものが、インテリアパースである。平行透視図法を正確に理解し、作図の基本的な流れに沿って作図作業を進める。	作品完成度	
三 学 期	1		インテリアの色彩についての基本的配色を学習し、イメージに合った表現で配色し、透明水彩の着色技術を身に付ける。さらに、陰影技法を理解し、パースの立体感・臨場感を表現するテクニックを身に付ける。また、物質感（テクスチャー）の表現にも工夫する。	
	2	インテリアの配色(カラースキーム パースペクティブのカラーリング)		
	3			